

33 軟式野球競技

1 競技の特性

軟式野球とは、ゴム製のボールを用いて行なわれる野球をいい、硬式野球で使用される革製のボールに比べ、柔らかいことから「軟式野球」という名称がつけられた。使用するボールは、小さく、ある程度硬く、スピードが出るため、中学校や高等学校では、体育の授業よりも、運動部の活動として行なわれることが多い。ルールは、硬式野球とほぼ同じで、硬式野球に比べてボールが柔らかい分、危険性が少ない競技である。

精神的要素が試合の流れを大きく左右し、個々の選手が攻守においてそれぞれの役割を果たさないと組織化されたゲーム展開ができない。試合は投手と打者を中心にチーム内で協力して攻防し合い、攻撃と防御(守備)を交替しながら得点を競う。また、大きな飛球や強烈な打球が常にヒットにならず、反対に打ち損ねた打球がヒットになったり、負けていても攻撃時に長打が出たりすると、一気に逆転する醍醐味がある。ここに野球のもつ意外性や面白さがあり、「筋書きのないドラマ、野球はツーアウトから」と言われるゆえんがある。

そのため、より高い個人的技能や集団的技能を身につけ、チームの特徴を生かした作戦や組織的プレーを生かし、チームで協力して勝敗を競うことにねらいが置かれることが多くなるため、自ずと高度なプレーや複雑なプレーを追求しようとするようになり、事故につながることもある。

2 事故・傷害の防止対策

(1) 施設・設備・用具

予想される事故・傷害の原因	傷害例	対策
・守備練習で、ゴロの打球がイレギュラーバウンドし、野手の顔面に当たる。	・眼球損傷 ・顔部損傷	・グラウンド状態を常に把握し、グラウンド状態を見ながら練習中でも整備を行ない、小石や異物の撤去も行なう。
・ベースランニング(走塁)中、ベースを踏んだ際にベースに足を取られて転倒する。	・捻挫 ・骨折	・ベース金具の凹部が土中に埋まり、凸部がしっかりとハマった状態でベースが固定されているか点検・確認する。
・バッティング練習中、打球が防球ネットを通過し、打撃投手をしていた生徒の顔面を直撃した。	・眼球損傷 ・顔部損傷	・防球ネットは、事前にネットが破れていないか点検し、破損箇所がある場合は補修するまでは使用しない。
・打撃練習中および投手の投球練習中、打者および捕手の頭部に投手の投げた球が直撃した。	・脳震盪	・ヘルメットの着用励行および使用するヘルメットに破損箇所がないかの点検、保証期間の確認をしておくこと。
・打撃練習中、使用していたバットが手から滑って離れ、待機していた次打者を直撃した。	・打撲	・滑り止め(ロジンバッグ)の使用、打者用手袋の着用、バットグリップのはがれの点検、周囲の安全確認を行なう。
・打撃練習中に、投手の投げた球および打者の打ち損ねたファールチップが捕手の急所に直撃した。	・鞏膜炎	・捕手は、急所カップ(アンダープロテクター)を必ず着用させる。
・打撃練習中、投手の投球や打者の打ち損ねたファールチップが捕手の頭部及び喉部に直撃した。	・頭部損傷 ・顔部損傷 ・喉部損傷	・捕手は、ヘルメット、マスク、スロートガード、プロテクターの着用と、日頃から用具の点検を行なうこと。

・本塁に突入してきた走者が、捕手の足を目掛けてスライディング・交錯し捕手の足に当たった。

・ノックによる守備練習中に、ノッカーのバットが玉継ぎする生徒の体を直撃した。

・捻挫
・骨折

・頭部損傷
・骨折
・打撲

・捕手は、レガースを必ず着用するとともに、破損がないか点検しておく。

・ノック練習において玉継ぎ等の練習補助をする生徒は必ずヘルメットを着用して行なうこと。



アンダープロテクター



マスク



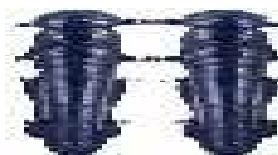
ヘルメット



スロートガード



プロテクター



レガース

(2) 活動内容

予想される事故・傷害の発生状況	傷害例	対策
・野手がベース付近で、タッチ及びフォースプレーをするところへ、走者が野手に向かってスライディングし、交錯する。	・打撲 ・捻挫 ・骨折	・フェアプレーと安全面をよく考えたスライディングを心がけるようにする。
・内野手が走路付近で、打球を処理しようとしているところへ走者が走り込んできて野手と激突する。	・打撲 ・捻挫 ・骨折	・コーチャーやベンチの指示や声をよく聞いて、走塁をする。フェアプレーの精神で、危険だと予測されるときは、状況を判断し、無理に走らない。
・打者走者のダイヤモンド内へ膨らんでの走塁、送球を妨害する意図を持って野手に向かう走塁により、激突する。	・打撲 ・捻挫 ・骨折	・一塁ベースを駆け抜ける際には、必ずスリーフラインの中を走る。ルール上でもオブストラクション（守備妨害）を取られる走塁はしない。
・走者がヘッドスライディングした際、指や肩がベースや守備者と接触し、怪我をする。	・打撲 ・捻挫 ・骨折 ・脱臼	・正しいヘッドスライディングの練習を十分積み、無理な体勢でのスライディングは行なわない。
・走者がベース付近でセーフになるうと、足を上げてスライディングし、スパイクの歯の部分で守備者を傷つける。	・裂傷 ・擦過傷 ・骨折	・スライディングをする際には、絶対に足を上げてスパイクの歯を見せてのスライディングはしてはならない。
・本塁に突入してきた走者に対し、捕手がボールを持つ前にベース上でブロックプレーに入り、走者と激突した。	・打撲 ・捻挫 ・骨折 ・脱臼	・捕手はボールを持たない限りは、ベースの一角を空け、ブロックプレーに入らないようにする。走者は、わざと捕手に体当たりのようなことはしない。

<p>・打者が盗塁を助けようと、捕手の送球直前にわざとスイングをしたり、打者席から前へ出る行為を行ない、捕手が負傷してしまう。</p>	<p>・打撲 ・骨折</p>	<p>・打つ気のないボールはスイングをしない。打ってからでなければ、バッターボックスから出たり、急に位置を変えたりしない。</p>
<p>・打者が、死球を得るために打球のコースから逃げないでわざと投手の投球に当たり、怪我をする。</p>	<p>・打撲</p>	<p>・投手の投球に対して、ストライクゾーン以外のボール球は、自分の逃げられる範囲でよけるようにし、決してわざと当たりに行かない。</p>
<p>・投手の投球練習が終わり、捕手がセカンドに送球する球が、投手を直撃してしまう。</p>	<p>・眼球損傷 ・打撲</p>	<p>・投げる際に、投手の状態を確認し、声をかけて行なう。投手は、一度捕手の送球の際にマウンドを降りるようにする。</p>
<p>・複数の場所で打撃練習をしている時、打球処理している選手に他からの打球が直撃する。</p>	<p>・眼球損傷 ・打撲</p>	<p>・投球、送球、打球に常に意識を持たせ、集中して、練習を行なう。それたボールなどに対応できる状態を作らせる。早めに声をかけさせる。</p>
<p>・バント練習時にバントし損なった打球が、指及び顔を直撃し、負傷した。</p>	<p>・眼球損傷 ・指部骨折</p>	<p>・バントの基本姿勢でしっかり行なう。バントの苦手な者は、打者用手袋を着用して行ない、指の保護をして練習する。</p>
<p>・守備練習中に、ノックのきわどい打球を捕球しようとスライディングキャッチやダイビングキャッチを試み、負傷した。</p>	<p>・頭部、顔部、胸部などの打撲、骨折、脱臼</p>	<p>・難しい打球に対しては、無理な捕球体勢で捕球しない。スライディングキャッチやダイビングキャッチを普段から練習しておく。</p>
<p>・サッカー部などと練習場を共用して練習している際、打球がサッカー部の生徒を直撃してしまった。</p>	<p>・眼球損傷 ・打撲</p>	<p>・打ち方や打つ方向を考えて行なう。打球がプレーヤー以外の所へ飛んだときには、「危ない」などと、活動している生徒全員で声を発する。</p>

3 事故防止のためのチェックリスト

施設・設備・用具	<p>グラウンドに石や不整備なところがあり、イレギュラーバウンドは起こらないように整備されているか。</p> <p>ベースはしっかりと固定されているか。</p> <p>防球ネットの破れや支柱が腐食しているなど、破損箇所はないか。</p> <p>金属製バット及びヘルメット（打者用、捕手用とも）に認定マークはついているか、破損箇所がなく使用できるものであるか。</p> <p>捕手が座って投球を受ける場合は、マスク、スロートガード、レガース、プロテクター、急所カップなどの捕手用具をきちんと着用しているか。</p> <p>打撃の際（投手が投球した球を打つ場合）、打者は必ず打者用両耳付ヘルメットを着用して行なっているか。</p>
活動内容	<p>走者が塁に滑らずに野手に向かってのスライディング、足を上げてのスライディングや体当たりなどのラフプレイは絶対に行なわせない指導をしているか。</p> <p>ノックの際、玉継ぎ等の練習補助をする生徒は、ヘルメットを着用して行なっているか。</p> <p>投手は、ウォームアップ後（投球練習終了時）、捕手がセカンドに送球する球に注視しているか。</p> <p>選手同士の接触の防止および急に飛んでくる打球の直撃の予防として、チーム全体で、声や周りからの指示が徹底されているか。</p> <p>複数で、素振りやキャッチボールを行なう際、周りの選手との距離を取るとともに、安全確認を行なっているか。</p> <p>打撃練習を2ヶ所以上で行なう際、投手については、投球を適度な間をおき、順番に打者に対して行なうようにしているか。</p> <p>自分の技能とかけ離れた練習をしていないか。</p> <p>炎天下で帽子をかぶっているか。</p> <p>水分補給や休息は適切に取っているか。</p> <p>体調の悪い選手、怪我をしている選手、精神的に不安定な選手はいないか。</p> <p>ウォーミングアップやクーリングダウンは十分に行なっているか。</p>
救急体制	<p>緊急時の連絡体制は十分か</p> <p>R I C E 処置など、応急処置について理解・実践できるか</p> <p>医薬品などは準備できているか</p> <p>水や氷の準備はできているか</p> <p>A E D の使用方法を理解しているか。</p>

参考 日本高等学校野球連盟「高校野球・周知徹底事項」
日本高等学校野球連盟「高校野球用具の使用制限について」